

[17頁の追加資料]

「契約とは」

『新共同訳：聖

書事典』より

神と人或いは民族との密接な関係における約束を意味する言葉である。

旧約においては、神は、イスラエルの民と特別な関係を成立させ、契約を結ばれた。

原初史においては、洪水後、ノアと虹の契約を結ばれ（創世記 9.8-17 参照）、救いの歴史においては、アブラハムとの契約（同上 15.7-21; 17.1-27 参照）を結ばれた。

また、律法の授与に関してイスラエルとの契約（出エジプト 34.1-28 参照）、さらに主なる神を唯一の神とし、これに帰属することについては、ヨシュアとその民との契約（ヨシュア 24.1-28 参照）をシェケム結ばれた。

次に、神は預言者を通して「新しい契約」（エレミヤ 31.31 参照）、と「永遠の契約」（エゼキエル 16.60 参照）が、預言されている。

そして、この「新しい契約」は、イエス・キリストによって成就された。

したがって、ただ神の憐れみとキリストの十字架の贖<sup>あがな</sup>い与ることによって信じる者が義とされるのである。キリストの「血による新しい契約」（ルカ 22.20 参照）は、世界のあらゆる民に与えられた。従って新しい契約は、福音である。この新しい契約の絶対性については、ヘブライ書で説明される（ヘブライ 8.8; 9.15; 12.24; 13.20 参照）。この恵みのことばを記したのが、「新しい契約」=新約聖書である。

これに対して、「古い契約」=旧約聖書と言う。